

# 広尾学園中学校高等学校

## 帰国生には最高の環境と条件（13）

国際担当 小山 和智

2007年4月、新生「広尾学園」がスタートしました。「入学満足度 100%」は既に在学している多くの男子からの便りにもあふれています。ますます目が離せない学校です。

### ● 新生「広尾学園」を評価いただき感謝します

広尾学園は、皆様のご要望に応える形で一昨年4月から、国立大学や難関私立大学への進学を目指す生徒のために「特進コース」を設置しました。昨年は共学化に踏み切る一方、海外生活の長かった帰国生や外国籍生徒のために、英語で授業をする「インターナショナルコース」もスタートさせました。

かつての順心女子学園を知る人の目には“大変革”と映りますので、心配がなかったわけではありません。しかし、走りだしてみると、実に好意的な反応がほとんどでした。週刊誌などでも取り上げられていますとおり、「2008年入試でもっとも志願者が増えた学校」となり、生徒数は千人を超えました。

「学校を変えていく」という私たちの意志を評価し、ご賛同いただきましたことに感謝するとともに、そのご期待に沿うための努力を続けていきたいと思えます。

### ● 「国際生」の条件が変わります

広尾学園は過去35年間、帰国生受け入れの先端校として帰国子女教育に貢献して参りましたが、昨今の社会の状況の変化に伴い、受け入れ条件の見直しを行いました。つまり、従来「海外生活1年以上、帰国後3年以内」となっていた「特進コース」における帰国生受け入れの条件が、下記の通り変更となります。ご理解のほどお願いいたします。

- 1) 現在の保護者ととも3年以上海外に在住していること。  
--- 留学など単身で海外に在留していたケースなどは、対象から外れることとなります。
- 2) 帰国後18ヶ月以内であること。--- 中学校の国際生入試の場合は、小学5年の夏以降に帰国した児童が対象となります。
- 3) 英検2級以上（または他の試験の同等以上）を取得していること。--- 受験資格としてはTOEFL iBT「45」程度になりますが、英語特別授業の取り出しの目安は「55」以上です。

以上の3条件をすべて満たしている帰国生の皆さんを、今後の国際生入試の対象とさせていただきます。現在、日本人学校にお通いの皆さんには少し厳し過ぎるように思われるかもしれませんが、過去数年の受験者実績を見ましても、支障が生じるような事例はありません。

### ● インターナショナルコースは随時編入が可能

「インターナショナルコース」（以下「インタークラス」といいます）は、従来通り随時編入で対応していきますので、現地校・国際学校に通っているお子様は、いつ帰国になっても安心です。

インタークラスは基本的に、英語で授業を行うコースとして、受験資格も英語力（前項の3）参照）以外の制限は設けていません。しかし、国際生入試（特進コース）が「小論文」と数学の適性試験および「面接」で行われるのに対し、インタークラスは英語による「英語」「数学」「面接」の試験が課されます。

インタークラスも日本の学習指導要領に準じた内容を指導しますから、高校卒業資格は日本国の高等学校普通課程の卒業となります。「卒業見込み」で日本の大学・短大などを受験できます。

また、指導内容の中に国際バカロレア機構（IBO）の教育内容も大幅に取り入れて、海外留学にも資する形になっています。ただし、広尾学園は現在のところ、IBOの候補校であり、認定校ではありません。

